

佐賀県佐賀市

古賀 旭

年齢 : 40歳

営農類型: 施設野菜 (いちご)

経営構成: ・本人

・妻

## 就農のきっかけ

実家(佐賀市諸富町)は海苔(のり)を生産していましたが、経営が厳しいこともあり実家を継ぐことを断念しました。

学校卒業後は、いくつかの会社で働きましたが、人付き合いや低賃金等で不安に思っていた時、妻が農作業のパートで働いていたこともあり、農業に興味が湧きました。それから、夫婦2人農業で稼ぐにはどのような作目を選んだほうがよいか検討を重ねた結果、高収入が期待できることや子供がいちごを好きなこともあり、農業普及所に相談し、いちごの研修を受けることにしました。

研修は、地域で高収量をあげている農家のもとで、1年9か月受講し、栽培技術などを学びました。

## 現在の経営状況、課題について

現在は約40aの農地にハウス3棟12aでいちごを栽培しています。

就農1年目は、研修で学んだことを実践したところ、地域の平均単収が4~5トンのところ、それを超える7トンを収穫することができました。

ただ、2年目は、定植した苗に花芽がつかなかったのも、一番価格が高い12月に思うように出荷できず、収入が伸びませんでした。これは、天候の影響もあるかもしれませんが、まだまだ経験不足であり、安定した収量を確保できるよう更に技術を身につけたいと思っています。

最近、重油や資材などの高騰から経費がかさんでおり、行政にはこれをもっと安くなるよう対策を行っていただきたいと思っています。

## 就農時に活用した事業

就農準備資金と経営開始資金(受給中)は主に生活費に活用しています。ハウス内の加温機と保冷库の購入には佐賀市の事業を活用させていただき、たいへん助かりました。

## 地域のサポート等

佐賀県いちご部会(佐城・三神地区)に所属しています。部会の活動として、現地研修会や出荷反省会などが開催されますが、いちご栽培に関する情報収集や技術向上のために積極的に参加しています。

栽培技術などで分からないことがあったら、研修先の農家の方やJA、農業普及所などに相談していますが、すぐにアドバイスいただくなどとても頼りにさせていただいています。

## 新規就農者にむけて

新規に農業をはじめるのは簡単なものではなく、きついことも多々あるので、やる気と覚悟を持ち研修等で得た知識を自分のものにして就農することが必要です。また、貯蓄ゼロからの新規就農は非常に難しく、一定程度の貯蓄を持って就農したほうが良いと思います。

農業の魅力は、頑張れば頑張るほど収入に反映されることであり、いちごで就農して良かったと思っています。また、子供が3人いますが、自営なので、急に何かあった時に融通がきくこともメリットの一つです。

## 今後の目標と取り組みについて

まずは更なる技術向上に向け頑張っていきたいと思っています。

夫婦2人では、現在の面積で手一杯ですが、もう少し慣れたらハウスをもう1棟増やしてもいいと思っています。